

B—29 皮脂成分と洗浄性

愛知教育大 平尾 あや
金城学院大短大 ○山田 寿子

1. 肌着の皮脂よごれを採取する実験中、被験者によりその脂質の状態に差があり、洗浄効率値にも相当な差のあることを知った。今回は脂質の成分上の差を調査し、洗浄効率値の差の原因追究を目的とした。

2. 3種(A, B, C)の蓄積保存した脂質による汚染布(滴下汚染…洗浄後の成分比をみるため。浸漬汚染…洗浄効率計算のため)を作製、洗浄(Na-ABS 0.1% 40°C 洗浄法…滴下汚染布はターゴトメーター使用 1000 ml の洗液 10 分。浸漬汚染布は島津洗浄試験機使用 100 ml の洗液 30 分。)した。1) 脂質の分割(総コレステロール・トリグリセライド・脂肪酸)…薄層クロマトグラフィー。
2) 脂質ならびに分割部の量の測定…単分子膜レンズ法。
3) 分割部の成分…ガスクロマトグラフィー。

などにより、脂質の洗浄前後の測定をして比較。

3. 1) 薄層クロマトグラフィーによる分割では、比較的明瞭な脂質がある。

2) 3種の脂質の分割部の量は、それぞれ総コレステロール<トリグリセライド<脂肪酸。

3) 滴下汚染布の洗浄の場合、残留率はトリグリセライド<脂肪酸。

4) ガスクロマトグラフィーでは、洗浄後の成分変化を究めるまでには至らなかった。